逸品が並び、作家や買い物客でにぎわう会場

## 手仕事のいいモノを探しに――春の五十崎で「クラフトフェア」

地域の素材や伝統から生まれた逸品を集めた「五十崎クラフトフェア」（五十崎商工連盟匠会主催、成田幸子（さちこ）委員長）が４月７・８の両日、五十崎凧博物館で開かれました。内子町内外から14人の作家などが出展。神奈川県から参加した『めぐみ焼菓子店』の川田真由美（まゆみ）さんは、「初めての出展。お客さんや職人の皆さんと交流できて、すてきな会場」とイベントを楽しんでいました。

試飲の赤ワインを楽しむ参加者

## 今年のワインの味はいかがですか「第７回内子夢わいん祭り」

「内子夢わいん祭り」（同実行委員会主催、一柳清志（きよし）会長）は４月14･15の両日、観光ふじブドウ園で開かれました。来場者は熟成ロゼに赤、白など５種類のワインを試飲しながら、バーベキューや出店ブースの料理を堪能。内子ワイナリーの藤渕利通（としみち）さんは「今年はぶどうの糖度が高く、アルコール度数を調整するための補糖が必要なかった。お客さんの評判も上々」と笑顔で話しました。

1_ポスター制作の様子。刷り終えたポスターが床一面にずらりと並べられた　2_「緊張する」と言いながら子どもの名前を書くお母さんと、それを笑顔で見守るお父さん

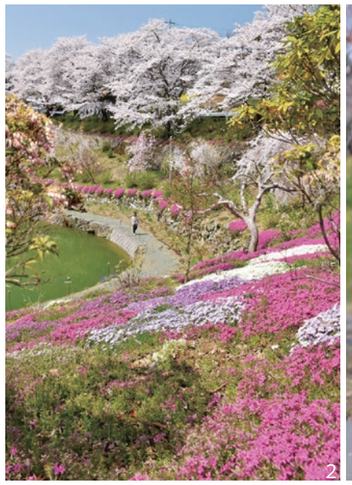
## 空高く舞い上がることを願って「いかざき大凧合戦」の準備着々

４月は「いかざき大凧合戦」の開催に向けた、さまざまな準備が五十崎地域で行われました。

３・４の両日、五十崎凧博物館で行われたのは、版画のポスター作り。約20年間、版画家の山田きよさんと和紙職人の西岡芳則（よしのり）さんが手掛けています。西岡さんが漉いた和紙に、山田さんがデザインした版画のポスターを手刷りし、約500枚のポスターを仕上げました。山田さんは「手作業なので、かすれや色合いの違いなど一枚一枚に味がある。凧合戦が終わっても貼り続けてくれる人もいて、うれしい」と話しました。

15日には「出世凧」の名前書きが共生館で行われ、町内外から142組の家族が参加しました。出世凧は初節句行事の一つで、凧に子どもの名前を書いて健やかな成長を願います。参加者は「緊張したけれど上手に書けた。当日は空高く揚がってほしい」と笑顔でした。

その他、内子町百畳凧愛好会による「百畳凧」作りや各自治会での合戦用の凧作りなどが行われ、５月５日に向けた準備が整いました。



## 春の訪れに笑顔満開 町内各地で「さくらまつり」

桜が開花した３月下旬から４月上旬、内子町内の各地で春を楽しむイベントが開かれました。

立石地区の尾首の池と相野の花では「立石まるごと春まつり」（立石愛鱗会主催、水岡芳廣（よしひろ）会長）が行われました。尾首の池では３月31日と４月１日、釜揚げうどんの食べ放題や、地元の特産品で作った料理などを販売。桜や芝桜、モクレンなどの色とりどりの花が咲き、来場者は立石の春を満喫していました。

野村地区では４月１日、自治会館などで手作りの餅や特産品を販売したほか、住民が新設した展望台で甘酒とちらしずしをふるまい、花見客をもてなしました。

そのほかにも「長岡山・四季の詩公園さくらまつり」や「石畳東のシダレザクラ祭り」などが行われ、多くの人が春の訪れを楽しんでいました。

1_ 桜色の洋服で長岡山のさくらまつりを楽しむ　2_尾首の池は花盛り
3_ にぎわう「立石まるごと春まつり」　4_野村地区の眺望と甘酒で笑顔

## 新園舎に子どもたちの元気な歌声 大瀬保育園入園式・落成記念式典

大瀬保育園の「入園式・落成記念式典」（内子町社会福祉協議会主催）が４月５日、新園舎で開かれました。式典後のオープニングセレモニーでは、園児たちがこの日のために練習した歌と踊りを披露。その他、落成を記念して作られた園歌の斉唱や餅まきも行われました。森美紀（みき）園長は「新しい園舎は明るく機能的。子どもたちがよりすくすく育つ環境になった」と謝辞を述べました。

４歳・５歳児が元気に「友達だいすき」と園歌を合唱